資料4

安来市小中学校適正配置基本方針に係る説明会　実施状況について

安来市教育委員会では、令和3年度に策定した「安来市立小中学校適正配置基本方針」について、市内の学校、交流センターなどで説明会を開催するとともに、意見交換やアンケート調査を通じて、地域のみなさまのご意見やご質問を伺いました。

これまでのアンケート結果と、ご質問に対する現時点の考え方などを以下にまとめました。

【説明会の実施状況】

●実施時期：令和4年6月～（継続して実施中）　　※10/17現在の集計

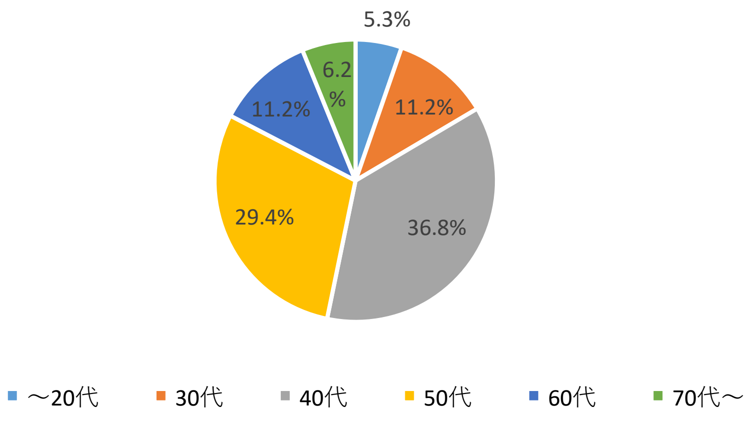
●実施状況：

区分	会場数	参加者数(延べ)
①保護者、教職員	6	120
②地域団体、交流センター	2	71
③その他の団体等	2	139

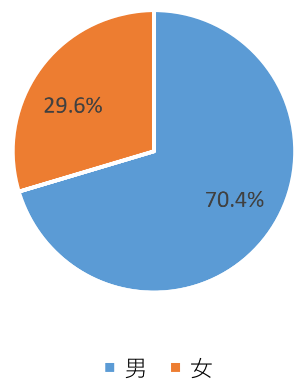
●今後の予定：引き続き、各学校、交流センター、出前講座等での実施を予定しています。

～アンケート調査より～

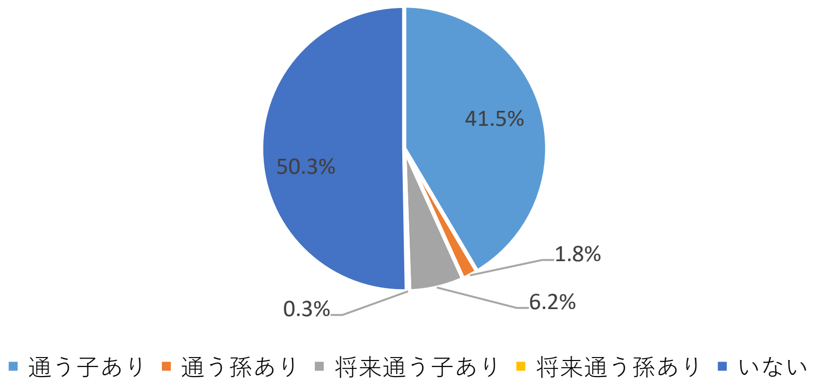
１．参加者の年代



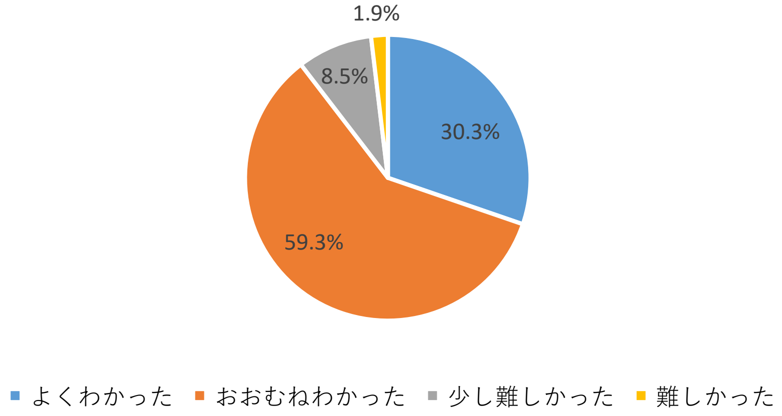
２．参加者の性別

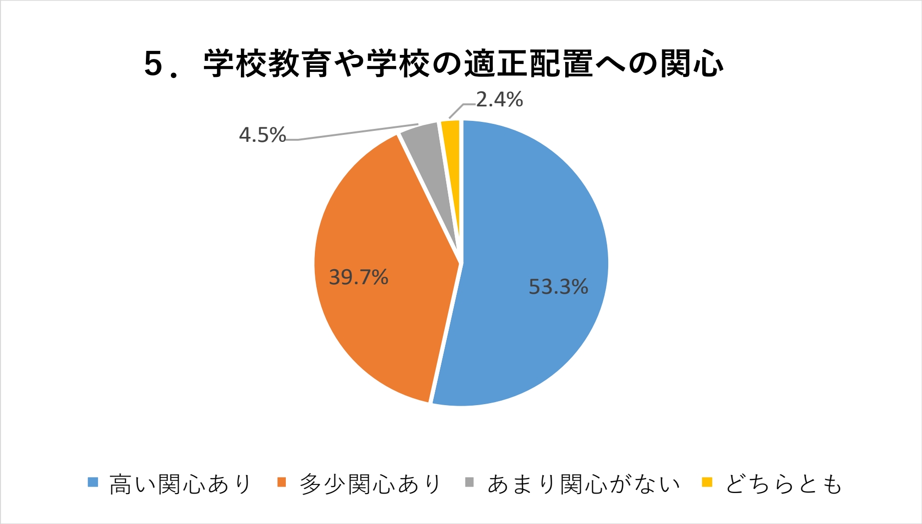


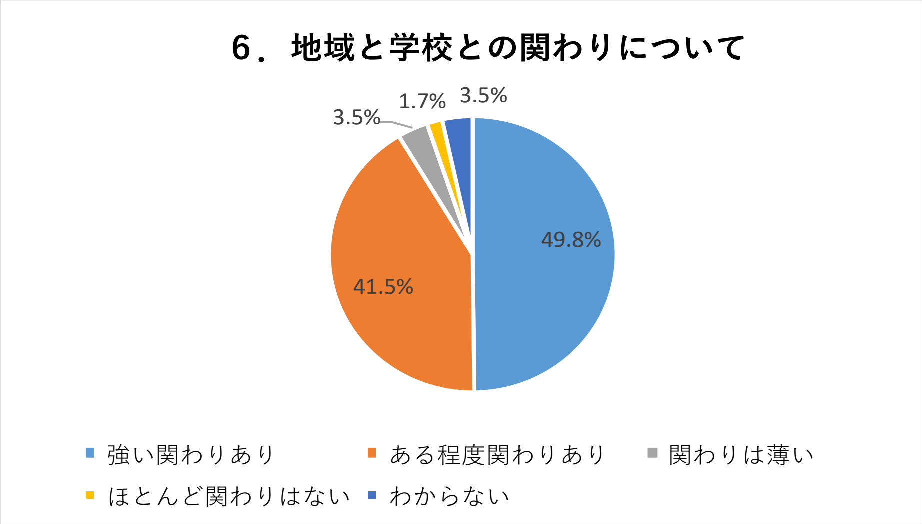
３．家族に小中学校に通う子や孫がいるか

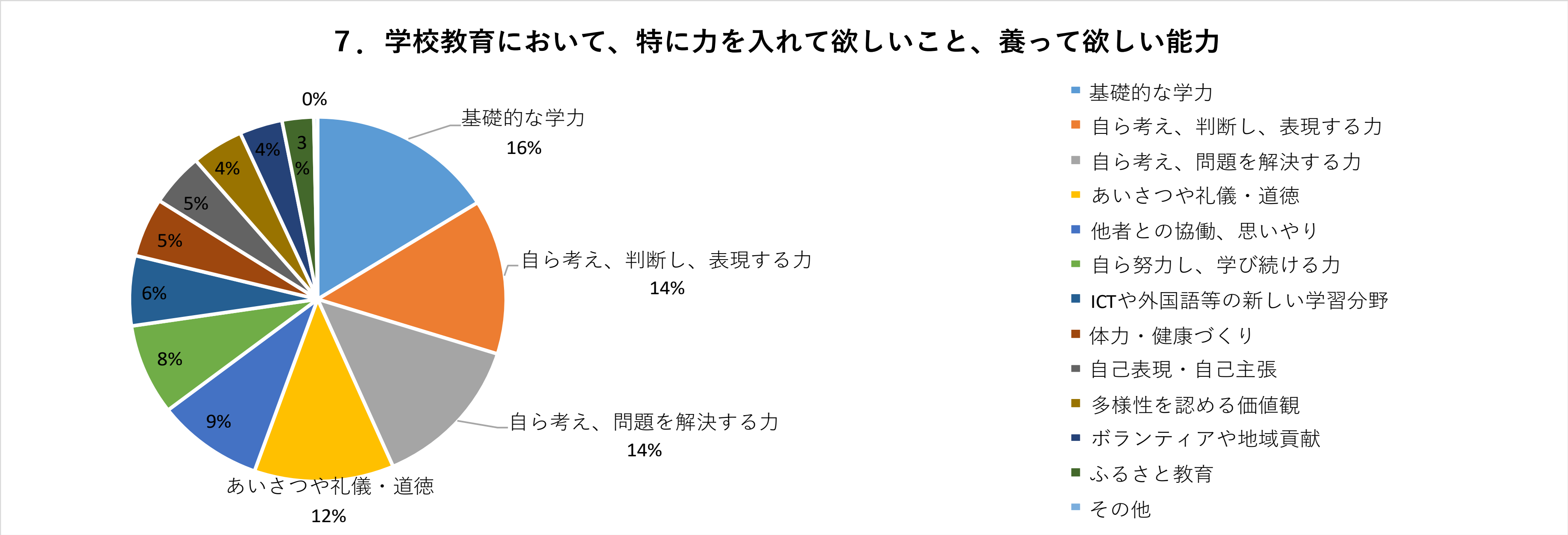


４．説明会の内容について

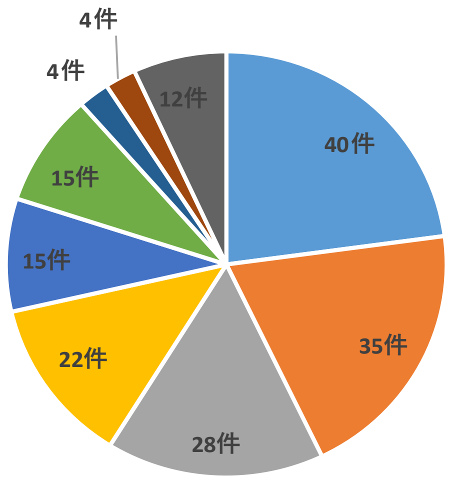



5．学校教育や学校の適正配置への関心
2.4%
4.5%
39.7%
53.3%
高い関心あり
多少関心あり
あまり関心がない
どちらとも


6．地域と学校との関わりについて
3.5%
1.7%
3.5%
49.8%
41.5%
強い関わりあり
ある程度関わりあり
関わりは薄い
ほとんど関わりはない
わからない


7．学校教育において、特に力を入れて欲しいこと、養って欲しい能力
0%
基礎的な学力
16%
自ら考え、判断し、表現する力
14%
自ら考え、問題を解決する力
14%
あいさつや礼儀・道徳
12%
9%
8%
6%
5%
5%
4%
4%
3%
基礎的な学力
自ら考え、判断し、表現する力
自ら考え、問題を解決する力
あいさつや礼儀・道徳
他者との協働、思いやり
自ら努力し、学び続ける力
ICTや外国語等の新しい学習分野
体力・健康づくり
自己表現・自己主張
多様性を認める価値観
ボランティアや地域貢献
ふるさと教育
その他

８－１．現在、学校等について感じていることは？（良いところ）



■ 少人数で学年を超えたなじみの関係、安心感、のびのびとおおらか、仲がよい

■ ふるさと教育、地域とのふれあい、地域や家庭との強い連携

■ 素直、挨拶など基本的なことがきちんとできる

■ 小規模校で様々な行事で多くの体験・活躍ができ、責任感も養われる

■ 少人数で一人一人の子どもに目が行き届く、きめ細やかな指導

■ 多人数による広い繋がり、多くの出会い、子どもどうしの学びあい、切磋琢磨

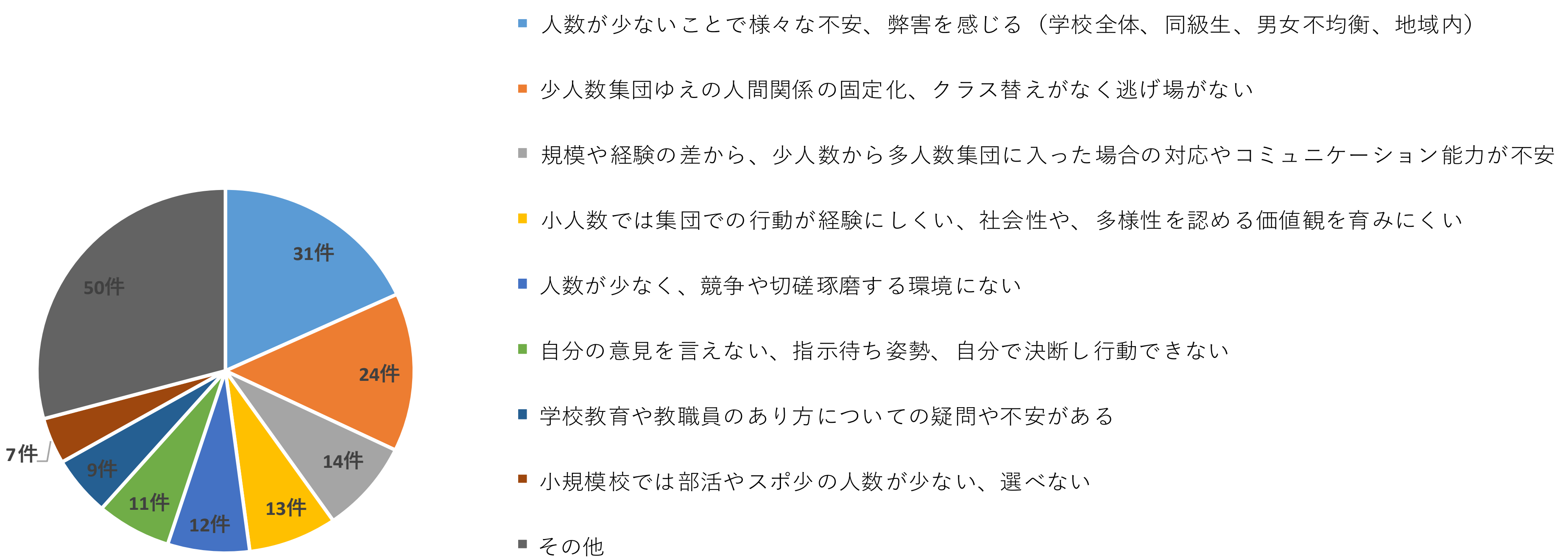
■ 自然多く豊かな教育環境

■ 中規模校で、バランスが良いと感じる

■ その他

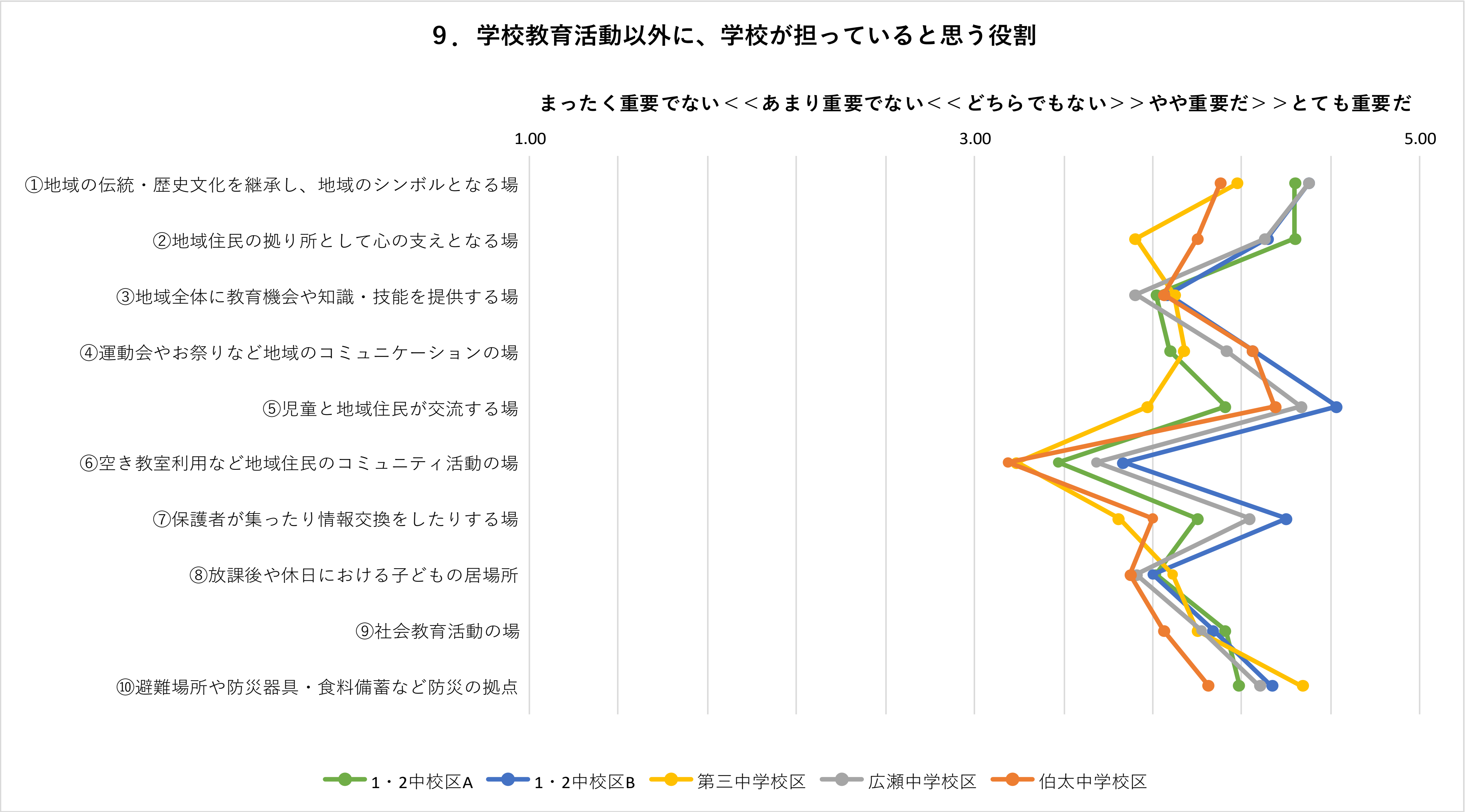
【その他のご意見】
・人数が多く、気の合う友達や部活動などを選べる
・通学が便利、安全である
・多様な関わりの中で人間関係を学びあうことができる
・小規模校では一人が自由に使える学校備品が多い
・学校の施設、環境が清潔、安全である　　ほか

８－２．　現在、学校等について感じていることは？（心配なところ）



【その他のご意見】

・子どもがおとなしく、パワーを感じられない、甘やかされている　・コロナによる制限や生活の変化
・社会教育活動や地域との関わりの減少　・放課後児童クラブがなく不便　・教職員の人数、業務量は適正か
・ICT教育やカリキュラムの増への対応　・メディアの使用やルール　・学校がなくなる不安、なくなってさびしい
・地域の人口減　・通学路の安全性や通学距離の不安、バス通学の不便　・現状が変わることへの不安
・団体生活のルール、挨拶など、基本的な生活習慣が身についているか　・特別な支援や対応が必要な子に細やかなケアを
・大規模校では目が行き届きにくいのでは。個別対応に不安あり。学校の状況もわかりにくい　ほか



※保護者・教職員説明会の回答のみ

～寄せられたご意見・ご質問～

区分	ご意見・ご質問	現時点での考え方
全体的な考え方、見通しなど	・適正配置の基準から外れた山間部の学校などは、統廃合となるのか。数字でなく、大切なのは教育の中身だと思う。	めまぐるしく変化する現在及び将来の社会において、子ども達に持続可能な社会の担い手として必要な資質・能力を育むために教育環境を整える視点を大切に進めていきます。 主体的、協働的な学びを進めるためには、一定の規模は必要であると考えていますが、必ずしも統廃合に限らず、さまざまな視点から多角的・総合的に検討しています。また、画一的に基準を当てはめるものではないことは、基本方針の中でも確認しています。丁寧な説明会を行い、地域のお考えを伺ってまいります。 最終的に再編を行うか否かに関わらず、地域の小中学校の将来に向けてのあり方について、市民のみなさまと一緒に考えてまいります。
	・市教委の考えとしては、あくまで基本方針で定めた基準を重視するのか、地域の思いを聞く考えがあるのか。	
	・積極的に小規模校を残す考えはあるのか。	
	・小規模校は手厚い指導をしてもらえ、逆に大規模であれば目が行き届かない部分も出てくるイメージ。大規模化が良いのか、疑問に感じる。	小規模校の良さもあれば、不足する点もあります。大人が見守りながら、子ども達がさまざまな学びや体験をし、自主性・主体性を育んでいくことが大切であると考えています。
	・人数が多ければ、「誰かがやるだろう」という意識が芽生えがち。主体性、自主性は育ちにくいのでは。	教育活動にはさまざまな場面があり、そういったご指摘の一面もあるかもしれません。しかし、学習面においては、今後の授業の方向性から、クラス内に一定の人数がいることで、多様な考えに触れたり、友だちと一緒に課題を解決しようとしたりすることに繋がり、学びに向かう主体性や自主性が育まれます。
	・財政理由からの適正配置検討なのか。	財政状況に関わらず、子ども達にとって最適な教育環境を考えるために必要な検討であると考えています。

	・適正配置検討の結果小規模校を残す場合、どのような考え方のもとに、支援やサポートをしてもらえるのか。	小規模校の利点が最大限生かせるように検討してまいります。
	・旧安来、広瀬、伯太の区域を超えた再編はあるのか。	さまざまな視点から検討していく考えです。
	・街部の大規模校には直接関係がないのでは。	規模の大小に関わらず、「学び」と「地域との連携」の視点に立って安来市の学校教育を考えていく必要があることから、市内全校を対象としています。
	・検討の結果統廃合などが行われる場合、どのようなスケジュールを想定しているのか。	具体的な方向性が定まった場合は、速やかに計画を策定していく考えです。
学習	・複式学級と単式学級で、学力に差は生じるのか。複式学級ではどのように指導をしているのか、学習において不利な点はないのか。	複式学級の授業は、１時間のうちに、一方の学年は教員が指導し、もう一方の学年は子ども達が中心となって学習を進めることを、交互に繰り返しながら実施します。現状において、学力学習状況調査からは、複式、単式を理由とする差は認められません。ただし、人数が固定化しているために、多様な考えを引き出しにくいという面があります。
地域との関わり	・学校をなくすことは活力ある地域づくりに逆行し、人口減少に拍車をかけるのではないか。	この検討は、未来を担う子ども達に必要な力が身につくよう、「教育」の視点に立ち、子ども達にとって最適な教育環境を考えることを第一義としています。 一方、少子高齢化が加速する中、地域の存続も重要な課題です。持続可能な地域づくりについても検討が必要であると考えています。
	・地域から学校がなくなることの弊害をどのように考えるか。	
	・学校運営協議会とは？	現在の学校評議員制度を発展させ、地域の多様な団体等が外部から参画し、校長の示す学校運営の方針などを承認していただくものです。学校と地域が目標を共有することで、子どもとの交流や学校支援が、より質の高い協働活動となることが期待されます。

<table>
<tr><td rowspan="2">施設</td><td>・施設が老朽化している、建て替えなどの考え方は。</td><td rowspan="2">学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な施設修繕等を行っていますが、追いついていない状況です。学校の適正配置検討の間は大規模改修は行わず、部分的な改修で対応することとしています。</td></tr>
<tr><td>・施設の修繕や環境整備が不十分に感じる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">通学</td><td>・遠距離通学となった場合の交通手段は。</td><td rowspan="2">通学に係る負担については、検討にあたって、非常に重要な視点の一つであると考えています。また、遠距離通学となる場合には、交通手段の確保と支援策も検討することとしています。</td></tr>
<tr><td>・基準に通学時間60分とあるが、自宅からバス停までの移動の問題もあり、特に低学年にとっては長すぎるのではないか。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">その他</td><td>・教職員の負担が大きく、余裕をもって子どもに接することができないように思う。教職員の配置はどのように決まるのか。</td><td>教職員は、法令を基準として定数配置が定められており、学校規模に応じた適切な配置がなされています。</td></tr>
<tr><td>・いじめや不登校などが増えているとも聞くが、学校の規模などと関係があるのか、またその対応に差があるのではないか。</td><td>いじめの認知件数や不登校数の増加の原因については、学校規模との関係はありません。規模に関わらず、きめ細やかな対応を行っています。</td></tr>
<tr><td>・大規模校でも、特別な支援が必要な子にきめ細やかな対応をしてもらえるのか。</td><td>学校の規模に関わらず、支援が必要な児童生徒に対しては、個別の特性に配慮しながらきめ細やかな指導、支援を行っています。</td></tr>
<tr><td>・統廃合があった場合、跡地利用などについての考え方は。</td><td>跡地の有効活用については、地域と協議しながら進めていく考えです。</td></tr>
</table>

～その他のご意見～

●全般について

・地域から学校がなくなり、子どもの姿が消えることは寂しい。なくさないでほしいと思ってしまう。
・今後地域の人口や子供の数が増えることは望みにくい。今はまだよいとしても、先送りにできない段階にきたんだなと感じた。
・人数が少なくとも安定している学校がある一方で、大きな学校でも人数が減っており驚いた。将来が不安。
・少子高齢化は急激に進んでいる。当事者の子どものためには、早く結論を出すべきだと思う。
・子供の数の減少は、学校を支える親の数の減少でもある。PTA活動なども大変に感じるようになった。
・昨今ニートやいじめの問題などもある。学校生活の多様な関わりの中で周囲と協調し、社会で生きていく術を学んでほしい。
・自分で考え、表現し、友達と考えながら課題を解決していく「アウトプット型学習」の実践には一定の人数規模が必要だ。
・自身の子どもの頃とは、学校の勉強の様子や、子どもに身につけさせるべき力についての考え方も変わっており、そのような学習ができる環境を作ってあげなければいけないのだとわかった。

●学校の規模について

・小規模校出身で、のちに大きい学校へ進学したが、特に困ることはなかった。小規模校での経験に十分満足している。
・大規模校では、いじめなどが見えにくくなってしまうのではないか。
・小規模校では、常に注目され、主役にならなければならない。負担に感じる子もいる。
・小規模校では、複式と単式を繰り返す学年があり、子どもにとっても先生にとっても大変だと思う。
・小規模校では、人数が少ないことでできない活動もあり、経験の差も生まれる。適切な教育環境といえるのか。
・小規模校で、同級生がいない、男女差に大きな偏りがある、というような環境は、やはりかわいそうだと思う。
・小規模校では、多様な考えに触れ、時に競い合いながら切磋琢磨する環境となりにくい。
・小規模校では、人間関係が固定化しがちである。人間関係に躓いたときに逃げ場がない。クラス替えができる人数は必要。
・小規模校では、部活動やスポ少の選択肢が少ない、人数が足りず試合に参加できない、文化部の種類が少ないなどの点は残念だ。
・小規模校から、中学、高校に進んだとき、環境変化にうまくなじめないケースもあると思う。

・小規模校出身で、のちに大きい学校へ進学した。初めから人数が多い学校で学びたかったと思った。
・小規模校では、皆に多くの活躍の場があり、積極性や主体性が育まれる。
・小規模校では、学年を超えた学校としての一体感の中で、皆が仲良く、思いやりを持って過ごすことができる。
・小規模校では、地域との繋がりが深く、特色あるふるさと学習などが行われている。学校、地域、双方にとって良い関係が構築されている。
・小規模校では、親同士のつながりも深く、学校の活動にも協力的である。
・教員の立場からは、ある程度の人数規模は必要だと感じる。

●学校と地域について

・すでに学校や保育園がなくなった地域では、やはり地域と子どもとの繋がりは薄くなったと感じている。
・小規模校ならではの良さもある。地域として小規模校で子どもを育てていくことも、積極的に選ぶべき選択肢の一つであると思う。
・小規模校をなくすだけでは、市街地への人口集中を加速するばかり。各地域の将来像や人口対策なども併せて考える必要がある。
・学校の歴史や伝統、地域の思いなどは理解できるが、未来を見て、子どもたちのためになる学校教育の在り方を考えるべきだ。
・大規模校を求めて出ていく人がいる一方、中山間地の豊かな自然環境での子育てを求める人もいる。地域そのものの魅力、地域づくりも重要だと思う。
・地域の熱意で小規模校を残したとしても、そこに住む若い世代の保護者や子どもがその学校を選ばない結果となることを危惧する。子どもファーストで議論を進め、よい教育環境を作ってほしい。
・学校教育と社会教育を合わせて検討しなければならない。
・学校がなくなった場合、跡地活用も含め、どう地域づくりをしていくかも重要な論点だと思う。

●その他のご意見・ご感想

・広瀬地域は面積が広い。人数が少なくとも、通学距離を考えると統合は困難。
・小中一貫校を導入してほしい。
・伯太は地域のまとまりから、場所はともかく、小学校が一つになるというのはありうると思っていた。
・クラス替えのこと、部活動のことなど、子どもの数からは、伯太中と二中は合わせて考えるべきなのかと思う。

・旧市町のまとまりにこだわりすぎなくてもよいと思う。
・市街地の学校に人数が集中しており、学びの環境に差ができている。大規模校でも校区の見直しなどを検討すべき。
・通学手段がきちんと確保されていれば、他校との合併や、よその地域の学校に通うことにあまり抵抗は感じない。
・子供の数は今後も減少する。かなり先を見据えて議論をしておかないと、せっかく決めても、すぐに次の対応が必要になると思う。
・通学のこともあり、小学校は現状のままでよいが、中学校は検討が必要だと感じる。
・通学の負担に配慮すべき。特に小学校低学年にとっては、負担が大きすぎると、学びに向かう意欲すらなくなる。
・適正な学校の規模、数とすることで、学校施設の維持管理もしやすくなり、子どもたちがよりよい環境で学習できる。
・現行バス通学をしているが、待ち時間や運行時刻のことなど不便も多い。不利益がないよう配慮してほしい。